

「学生海外調査研究」について

「国際教育」事業推進担当者 竹村 和子
菅 聡子

「学生海外調査研究」は、本プログラムの「国際教育」推進事業の一つとして、平成19年度より実施されたものである。主たる目的は、大学院生の研究活動の支援・育成であり、とくに自身の研究をどのように国際化し、自国にとどまらず海外に向けて発信しうるか、その基盤を作るために、海外における調査研究を支援の対象とした。

申請資格者は、本学大学院人間文化創成科学研究科（または人間文化研究科）博士後期課程に在籍する者で、1）比較社会文化学専攻（または国際日本学専攻）に所属する者 2）1）以外の専攻に所属し、専門研究領域が比較文化社会学の分野と関連している者 である。

プログラム採択による日程の関係上、短い公募期間であったにもかかわらず、28名の応募を得、選定委員会による公正な審査を経て、20名が採択された。

調査研究の成果は、本成果報告書に掲載されている各報告に明らかであるが、いずれも今後の研究において豊かな可能性を感じさせるものとなっている。その意味で、今回の「学生海外調査研究」は、院生に対する支援事業として十分にその意義を示し得たと言えるだろう。

来年度以降実施される、同様の「国際教育」推進事業においても、さらなる院生への支援を企図するとともに、その研究成果に対して大きく期待している。